サル痘ってどんな病気？

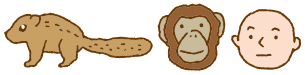
サル痘は**サル痘ウイルス**による**急性発疹性疾患**です。
中央アフリカ系統群(クレード1)と西アフリカ系統群(クレード2)の２種類があります。
クレード２は毒性が低く、今回流行しているのはこちらに関連する型と考えられています。

どこで流行しているの？[1]

流行地
主にアフリカ中央部や西部にかけて発生してきましたが、
2022年5月以降、海外渡航歴のない患者が欧米などで相次いでいます。
CDCによると8月初め時点で患者数は世界88国で2万6000人以上。

流行国
スペイン、ドイツ、米国、英国など
WHOは7/23に公衆衛生上の緊急事態であることを宣言し、注意を呼び掛けています。
日本では7/25に初めて患者が確認。

感染経路は？



動物から
感染動物（アフリカに生息するリスなどのげっ歯類やヒト以外の霊長類など）との接触。
サルという名前がついているが、サルからだけ感染するわけではありません。

人から
人から人への感染。
感染した人の飛沫・体液・皮膚病変（発疹）を介した**飛沫感染や接触感染。**
患者と接近した対面で飛沫に長時間のさらされたり、患者が使用した寝具との接触。
※患者の多くは男性間性交渉者。感染者との性行為などによる濃厚接触で感染拡大している可能性があるが、感染はそれ以外のケースでも起こっている[2]。

潜伏期間は？

通常7～14日（最大5～21日）とやや長いです。無症候感染はまれで、**ほとんどは症状が出現する**と考えられています。**コロナほどの感染力の強さはない**のではと考えられています。

どんな症状？

発熱、頭痛、リンパ節の腫れ、筋肉痛が続き、その後**発疹**が現れます。
発疹は通常発熱後1～3日以内に始まります。
体よりも顔や手足に出やすいです。水疱（**水ぶくれ**）を形成し、
痂皮化（**かさぶた**）したのち多くは**2～4週間で自然に治癒**します[3]。

合併症 皮膚への細菌感染（2次感染）や肺炎、脳炎、角膜炎など。

サル痘の皮膚所見（文献6より引用）

重症化は？

まれに重症化することもあり、致死率は一般的に0～11%で、最近では3～6%とされています[3]。
天然痘（死亡率30%）と比べると低いです。今回の流行での死亡例は主にアフリカですが、
スペインやブラジルなどアフリカ以外での死亡例も数は少ないものの報告されています。
妊婦・小児・免疫抑制状態の人で重症化のリスクがあります。

妊婦の感染

妊婦が感染した場合、ウイルスは**胎盤を通過して胎児に移行する可能性**があり[3]、
それが妊娠合併症、先天性サル痘、
死産のリスクが高くなるとされています。
コンゴでのサル痘の妊婦4名の報告では、
1人は健康な赤ちゃんを出産したが、
2人は妊娠初期に流産し、1人は胎児死亡が
あったと報告しています[4]。

子どもの感染

小児はリスクが高いとされ、
重症、死亡した症例の報告があります。
米国で2003年に起こった流行時に34例の患者を調べた報告では、18歳以下の患者10例のうち半数の5例が肺炎による人工呼吸管理や脳炎で集中治療室に入院。小児は成人より重症リスクが高いです[5]。
死亡については、アフリカでは子どもに多く発生する一方、先進国での死亡例は報告されていません。これは医療へのアクセスによる差と考えられています[5]。

治療はどうするの？

症状に対する対症療法です。
サイトメガロウイルスや天然痘の治療に開発された抗ウイルス薬なども有効とされています。

予防はどうするの？

飛沫・接触感染対策

マスク着用、咳エチケット、手指衛生など、**基本的には新型コロナ感染対策と同じ。**
使用したリネンや衣類を介して感染が広がる可能性があるので、手袋着用など**直接的な接触を避けます。**
発症後からすべての発疹が消え、新しい正常な皮膚に覆われるまで感染予防策が必要です。

ワクチン

天然痘ワクチン（痘そうワクチン）が予防に有効とされています。曝露後4日以内に接種すると**感染予防効果**が、4～14日で接種した場合に**重症化予防効果**が期待できます。
生ワクチンなので妊婦さんや免疫不全の患者さんには使えないことに注意。
ただし、容易に手に入るワクチンではないため、**現時点では飛沫・接触感染対策が重要**です。

大事なこと

誰にでも起こり得る感染症です

現在の感染の中心が男性間性交渉者とされていますが、飛沫・接触感染なので、感染はそこだけにとどまるわけではありません。**誰にでも起こり得る感染症**であることを知っておきましょう。

差別や偏見と結びつきやすいリスク

感染症に伴う差別や偏見と結びつきやすいリスクがあることを自覚しましょう
（HIV/AIDS のときのように）。センセーショナルな報道の結果、
症状のある方が病院を受診しづらくならないよう社会全体での配慮が必要です。

1.国立感染症研究所, 複数国で報告されているサル痘について（第2報）. 2022.
2.WHO, Disease Outbreak News: Multi-country monkeypox outbreak in non-endemic countries. 2022
3.WHO, Fact sheets(Monkeypox). 2022.
4.Mbala, P.K., et al., Maternal and Fetal Outcomes Among Pregnant Women With Human Monkeypox Infection in the Democratic Republic of Congo. J Infect Dis, 2017. 216(7): p. 824-828.
5.Huhn, G.D., et al., Clinical characteristics of human monkeypox, and risk factors for severe disease. Clin Infect Dis, 2005. 41(12): p. 1742-51.
6.Lancet Infect Dis. 2022 Aug;22(8):1153-1162.